

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市芦の口児童館
2	指定管理者	特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘
3	指定期間	平成29年4月1日から平成34年3月31日まで
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》 21,660人 (前年度比 110.3%) 平成28年度 19,630人 平成27年度 19,321人 平成26年度 20,985人</p> <p>《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業</p>
5	収支の状況	<p>《費用》 ()は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定管理者に支払った費用 29,512千円 (22,202千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円) <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
6	利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	児童館の設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示、ホームページ等で利用者にも周知している。また、地域特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	S
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な運営管理体制が構築されている。また、施設内外の日常点検及び定期点検、マニュアル等の整備、毎月の避難訓練の実施等、安全に留意した運営に取り組んでいる。	S
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な保守点検や清掃により、建物、設備、外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取組みが実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	S
IV サービスの質の向上	名札の着用、館内掲示による職員紹介、児童館だよりの発行やホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境作りに取り組んでいる。また、各種研修への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等を通して利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	S
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、児童が地域の店舗で買い物をする社会体験の機会を毎月取り入れているほか、夏季休業中に保護者会の協力を得て、親子・保護者交流行事を設けている。毎月発行の児童クラブ通信で子どもたちの日常の遊びや生活の様子を伝えるとともに、保護者会での懇談を通して家庭との情報共有を図っている。また、地域の団体等と連携しながら児童の健全育成や子育て支援に取り組んでいる。	S

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1		
2		
3		
加点評価		—

四 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘）による自己評価》
<p>●地域とのつながり… 開館から6年、地域の子供達を見守る場所として定着している。地域の方々と構成されている子育て支援クラブ「あしっこ」は、地域の民生委員、子育てを終えた会員や乳幼児の子育て真最中の若い会員まで年齢層が幅広い。また新たに男性会員2名を加え、和気あいあいと活動している。恒例行事であるあしっこの共催事業『流しそーめん』は竹伐りから始まり、あしっこのお父さん達や男性メンバーが活躍。節抜き作業では、あしっこに加え児童クラブの保護者とこどもスタッフが力をあわせた。1月の『もちつき会』の参加は122名。餅つき経験世代の方から若いお父さんたちが教わる機会ともなった。また、今年度は地域の中学校箏曲部による琴の演奏も行い、日本の文化を継承する意味と児童館の果たす役割を実感できる行事となった。</p> <p>●子育て家庭支援 育児相談『ことりる～む』は、専門知識のある方の相談室という事で、お母さんたちに乳幼児の心の発育に必要なことは十分に愛された実感とあそびこむ事だと、家庭で子育てをし孤軍奮闘しているお母さんたちを励ましてきた。また、児童館の利用をきっかけに子育ての仲間ができるようにと始めた月に1回の「ほっとサロン」は地域の若いお母さん達に好評で毎回楽しみに参加して下さる方も多い。</p> <p>●こどもの育ちの場として 児童クラブを利用する子どもに加え、自由来館の子どもたちの利用も多く、一輪車に乗れると楽しみにして児童館内にあそびに来る。野球やサッカーなど限られたスペースで時間を決めながら、子どもたち同士が工夫して遊ぶ姿、異年齢で遊ぶ姿から児童館・児童クラブは子どもたちにとって「育ちあい」の場であると感じた。また、児童館では一人になる空間の確保は難しいが、事務室にある相談室をトラブル時のクールダウン、宿題、おやつ、ごろごろしたい時と毎日誰かが利用をしエネルギー回復の場所として活用した。集団で育ちあう良さを活かしつつ、ひとりひとりに丁寧に向き合うことを心がけ『人にやさしくみんなが笑顔』になれる児童館運営を続けていきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>職員が手作りおやつを提供するサロンが保護者交流の場として定着しているほか、親と子の育ちの場として発達段階に応じたプログラム、育児相談、保護者向け行事などを提供し、子育て家庭支援の充実に取り組んでいる。</p> <p>児童クラブでは、職員が子ども一人ひとりと関わることを大切にし、遊びやおやつの時間等を利用して、一人ひとりに寄り添った丁寧な対応を行っている。また、家庭・学校とともに、子どもの「遊び」「学び」「食事」のバランスを考えた支援を行う活動にも取り組んでおり、評価できる。</p> <p>さらに、太鼓ややすめ踊りのグループが児童館を活動の場としているほか、児童館まつり、餅つき会等の行事では、児童館が様々な世代が集う場となっており、地域交流の拠点としての役割を果たしている。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課） 子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進室